

問題 C

問 1 顎運動の際に下顎を引き上げる筋肉ではないものはどれか。組み合わせを選びなさい。

- a. 外側翼突筋
- b. 顎舌骨筋
- c. 内側翼突筋
- d. 側頭筋
- e. 咬筋

1. a, b 2. a, d 3. c, e 4. d, e 5. b, c

問 2 食道入口部開大に関わる一連の生理学的機能に関わる神経および筋肉について不適切なものはどれか？

- a. 迷走神経
- b. 輪状咽頭筋
- c. 舌骨上筋群
- d. 下咽頭収縮筋
- e. 舌骨下筋群

1. a, c 2. c, e 3. c, e 4. b, d 5. d, e

※選択肢<3>は削除

問 3 以下の運動に関与する筋肉とその支配神経の正しい組み合わせはどれか。

- a. 口唇閉鎖保持……口輪筋……顔面神経
- b. 頬に緊張をもたらす……頬筋……顔面神経
- c. 吸引に重要な舌の正中部陥凹の形成……下縦舌筋……舌下神経
- d. 下顎の咀嚼運動……内側翼突筋……迷走神経
- e. 舌骨を前上方に引き、咽頭を広げる……オトガイ舌骨筋……顔面神経

1. a, c 2. a, b 3. c, e 4. d, e 5. b, c

問 4 摂食嚥下に関する次の記述のうち、正しいものを一つ選んでください。

- 1. 先行期は認知機能の影響を受ける。
- 2. 準備期では食塊を咽頭に送り込む。
- 3. 口腔期の食塊の移送は口唇で行う。
- 4. 咽頭期は鼻腔が開放して始まる。
- 5. 食道期は随意的な運動で行われる。

問題C

問 5 気管カニューレによる摂食・嚥下機能への影響について誤っているものを一つ選んでください。

1. 声門下圧の低下
2. 咽頭挙上の制限
3. 咽頭の感覚閾値の低下
4. カフによる食道への圧迫

問 6 以下の文章の空欄の部分に入る適切な語句を下から選びなさい。

摂食・嚥下リハビリテーションにおいては、食物形態の調整やとろみ剤の使用、一口量調整、体幹・頸部の角度調整等を(①)と位置づけ、食物や水分を安全に経口摂取することを進捗させるために、嚥下様式そのものを改善することを(②)として、両側面から考えることが大切である。また、食事介助に関連した援助の要素は、大きく(③)と(④)に分けて考えることができる。さらにNSTの役割で重要な視点は(⑤)である。

- a. 食事介助方法
- b. 治療的訓練法
- c. 補助的栄養法
- d. 代償法
- e. 嚥下機能評価
- f. 食事環境の整備
- g. 栄養アセスメントの施行
- h. 在院日数の短縮

問 7 老化に伴う嚥下機能低下の原因について誤りを1つ選びましょう。

1. 注意力、集中力の低下
2. 咳嗽反射の低下。
3. 塩味、苦味の域値上昇
4. 無症候性の脳梗塞
5. 喉頭が解剖的に下降し、嚥下反射時に喉頭挙上距離が小さくなる。

問 8 咽頭期について誤りを1つ選びましょう。

1. 軟口蓋が鼻腔を遮断する。
2. 喉頭蓋による気管口閉鎖のために喉頭が前上方に挙上する。
3. 食道入口部が閉鎖する。
4. 陰圧により食塊は咽頭下部に吸引される。

問題 C

- 問 9 摂食・嚥下に関わる器官について、誤りを1つ選びましょう。
1. 口唇—消化管の始まり
 2. 舌—食塊形成
 3. 顎—咀嚼に関わり下顎のみ動く
 4. 軟口蓋—下降し鼻腔とを遮断
 5. 喉頭蓋—嚥下時、気管への入り口を遮断する
- 問 10 摂食・嚥下障害を疑う症状として誤っているものを1つ選びましょう。
1. 炎症反応(CRPや白血球の上昇など)
 2. 痰の性質が変化する
 3. 流涎が多い
 4. 体重の増加
 5. 食べ物の好みが変わる
- 問 11 老年症候群に含まれる症候である。誤っているのはどれか。1つ選べ。
- 1 誤嚥
 - 2 うつ
 - 3 転倒
 - 4 黄疸
 - 5 褥創
- 問 12 嚥下障害に関する記述である。誤っているのはどれか。1つ選べ。
- 1 パーキンソン病は、原因となる。
 - 2 咽頭期の障害では、食物の捕捉ができない。
 - 3 評価法には、水飲みテストがある。
 - 4 直接訓練では、食物を用いる。
 - 5 肺炎の原因となる。
- 問 13 嚥下の過程とその内容の組合せである。正しいのはどれか。1つ選べ。
- 1 先行期-----食塊の形成
 - 2 準備期-----食物の捕捉
 - 3 口腔期-----食物の認知
 - 4 咽頭期-----蠕動様運動
 - 5 食道期-----随意運動